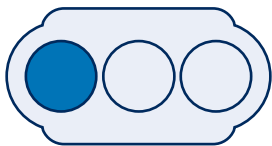
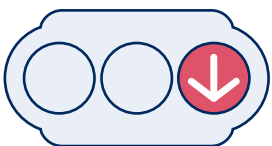
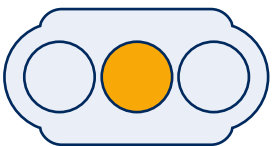





シュローダー・スナップショット

マルチアセット・ビュー グローバル市場見通し

2024年4月

見通しの表示： ● 強気 ● 中立 ● 弱気 矢印：対前月での見通しの引き上げ/引き下げ

株式	国債	社債	コモディティ（商品先物）
			
各国の経済指標が全般的に堅調であることや景気サイクルの好転が株式市場にとって支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。	デysinflの勢いが減速する中、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ開始時期が後ずれする可能性があるほか、バリュエーションが割高であること等を踏まえ、見通しを弱気に引き下げました。	米ドル建て社債を中心に割高感が浮上しており、中立の見通しを維持しています。	欧米では製造業が改善傾向を示しており、産業用金属に対する需要増加につながる可能性があることから、見通しを強気に引き上げました。

資産クラス	分類	見通し
株式	米国	 堅調な経済成長や底堅い労働市場、良好な消費者センチメント等を踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州経済は回復基調を継続しており、欧州株式にとって支援材料になると考え、強気の見通しを維持しています。
	日本	 企業ファンダメンタルズ、マクロ環境が共に良好であることから、強気の見通しを維持しています。
	アジア（除く日本）	 中国人民銀行は大規模な金融緩和策は避けてきました。また、米国での利下げ時期が後ずれするとの見方もマイナス要因となっており、中立の見通しを維持しています。
	新興国	 中国経済は引き続き脆弱性を見せており、特に不動産セクターは低迷しています。新興国株式市場における中国のプレゼンスの高さを考慮し、全体としても中立の見通しを維持しています。










最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社




金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号




加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Schroders

資産クラス	分類	見通し
国債	米国	 インフレのリスクが再浮上していることを踏まえ、見通しを弱気に下方修正しました。
	欧州 (ドイツ国債)	 欧州中央銀行(ECB)は6月に利下げを開始する可能性を示唆しましたが、この見方は十分に市場に織り込まれているため、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (現地通貨建て)	 ソフトランディングは米ドル安、新興国の金利低下につながる可能性があります。ソフトランディングを基本シナリオと考えますが、米国のインフレと金融政策の不確実性を考慮し、中立の見通しを維持しています。
	インフレ連動債	 インフレ再加速に対するヘッジになることから、強気の見通しを維持しています。
投資適格社債	米国	 割高な水準にあり、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 欧州投資適格社債は相対的に魅力的なスプレッド水準を提供していますが、足元、投資家はスプレッドではなく利回りに焦点を当てているため、中立の見通しを維持しています。
	新興国 (米ドル建て)	 企業ファンダメンタルズは良好ですが、バリュエーションの観点で割高感が浮上しており、見通しを中立に引き下げました。
ハイイールド社債	米国	 割高な水準にあると考えているものの、ダウンサイドリスクは限定的であるとされており、中立の見通しを維持しています。
	欧州	 その他主要中央銀行と比較して、ECBによる利下げサイクルは先んじて進行するとの見方から、強気の見通しを維持しています。

最終ページの「本資料に関するご留意事項」を必ずご覧ください。本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

資産クラス	分類	見通し
コモディティ (商品先物)	エネルギー	 OPEC+はさらなる追加減産を目指していますが、構成国間における合意形成は難航しています。また、緊迫する中東情勢も市場は十分に織り込んでいると考え、中立の見通しを維持しています。
	金	 需要が旺盛であることを踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	産業用金属	 供給がタイトであること、製造業が回復基調にあることを考慮し、見通しを強気に引き上げました。

資産クラス	分類	見通し
通貨	米ドル	 プラスのキャリーと米国の経済成長が良好であることを踏まえ、強気の見通しを維持しています。
	ユーロ	 欧州の景気サイクルは好転していますが、金利差の拡大が見込まれることから、中立の見通しを維持しています。
	日本円	 段階的ではあるものの日本銀行が利上げを実施し、中期的には円が上昇するとの見方から、強気の見通し維持しています。

本資料に記載された見解はシュローダーのエコノミクス・チームによるものであり、必ずしも他のシュローダーの見解と同一であるとは限らず、シュローダーが提供する運用戦略やポートフォリオに反映しているものでもありません。将来の動向や予測の実現を保証するものではなく、市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。予測値は将来の傾向を例示することを目的とするものであり、その実現を示唆あるいは保証するものではありません。実際には予測値と異なる結果になる場合があります。

出所：シュローダー。社債に関する見通しは信用スプレッド(デレージョン・ヘッジを前提)の動きに基づくものです。ユーロと日本円は対米ドルの見通しとなります。

【本資料に関するご留意事項】 本資料は、情報提供を目的としてシュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、いかなる有価証券の売買の申込み、その他勧誘を意図するものではありません。本資料に示されている運用実績、データ等は過去のものであり、将来の投資成果等を示唆あるいは保証するものではありません。投資資産および投資によりもたらされる収益の価値は上方にも下方にも変動し、投資元本を毀損する場合があります。また外貨建て資産の場合は、為替レートの変動により投資価値が変動します。本資料中に記載されたシュローダーの見解は、策定時点で知りうる範囲内の妥当な前提に基づく所見や展望を示すものであり、将来の動向や予測の実現を保証するものではありません。市場環境やその他の状況等によって将来予告なく変更する場合があります。本資料は、作成時点において弊社が信頼できると判断した情報に基づいて作成されておりますが、内容の正確性あるいは完全性については、これを保証するものではありません。本資料を弊社の許諾なく複製、転用、配布することを禁じます。シュローダー/Schrodersとは、シュローダー-plcおよびシュローダー・グループに属する同社の子会社および関連会社等を意味します。



創業から200年超、日本に根ざして50年。
 卓越した資産運用サービスをお届けするため、
 私たちの視線が向かうのは、いつもひとつ先の未来。
 今また新たな投資機会の発掘に向け、
 シュローダーは動き出しています。